

第1学年C組 社会科学習指導案

授業者 石高吉記

1 単元名 世界の諸地域 ～ヨーロッパ州～

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）2内容 B（2）に以下のように位置付けられるものである。

B 世界の諸地域

(2) 世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① アジア ② ヨーロッパ ③ アフリカ
④ 北アメリカ ⑤ 南アメリカ ⑥ オセアニア

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元においては、世界の諸地域の学習全体で世界の各州の地域的特色やそこで見られる地球的課題と地域的特色の関係を理解できるようにすることが求められている。

本小単元では、ヨーロッパ州の特色を捉える学習において、「EUは必要か不要か」と副題を設定し、それを探究していくことでヨーロッパの地域的特色を理解させることを考えている。ヨーロッパ州は、小国が陸続きで密集していることや、歴史的に地域内で戦争を繰り返していた影響で平和を求めていることから、ヨーロッパ州内の結びつきを強めようとしてきた。また、アメリカや日本、中国などの巨大な市場に対抗するためという要因もある。それらにより、共通通貨を発行したり、国境を越え、ヒト・モノ・サービスの移動が自由などといった優位性を持ち合わせたりし、発展している。しかし、そういったEUを離脱するイギリスや、ロシアのウクライナ侵攻に焦点をあて、EUはこれからどのようにしていくのかという課題を考えることを通して、経済格差や戦争問題、難民問題などの地球的課題を解決し、よりよい社会をつくらうとする主体的に学習に取り組む態度を育成していくことができる教材であると考えている。

(2) 指導観

グローバル化が引き続き進展し、また環境問題等の地球的課題が一層深刻化する現状においては、世界の諸地域の多様性に関わる基礎的・基本的な知識を身に付け、世界全体の地理的認識を養うとともに、世界各地で見られる地球的課題について地域性を踏まえて適切に捉えることが大切であることから、地球的課題の視点を「世界の諸地域」における追究の視点として位置付けることが意図されている。そのため、「B 世界の様々な地域」の「(2) 世界の諸地域」という大き

なまとまりの中で地球的課題をとらえさせたい。また内容の取扱いの「我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定する」とあるように、今後学習する大項目「C 日本の様々な地域」を視野に、我が国との比較や関連を図る視点をもって主題を設定していくことが大切である。小単元を通じた学習において、これからのEUはどのようなようになっていくのかという課題の解について対話を行い、根拠を基にした多様な意見を出させ、地域格差や地域同士の結びつきといった地球的課題を見出させたいと考えている。

(3) 研究の手立てについて

授業の設計についてと思考の変容が読み取れる「社会科学びの地図」の活用については教科論を参考にされたい。

「評価活動における自己と他者の相互作用に関する研究」について、授業内で他者の考えが自分の考えを深めることへの有用性を自覚することと、反対に、自分の考えが他者の考えを深めるきっかけを与えた効力感を実感する工夫を行った。具体的には、意見交流を行った対話での変容を自覚する時間を設け、学級内で共有する。他者と対話する中で、自分の考えが変わったり、根拠が明確になったり、強化されたりした場面をメモし、周囲に伝えることによって、全体で価値付けされ、自己有用感や自己効力感が高まり、さらなる挑戦心の醸成につながるのではないかと考える。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

- ・ヨーロッパ州の地域的特色やそこで見られる地球的課題と地域的特色の関係を理解できるようにする。 **【知識・技能】**
- ・空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、ヨーロッパ州で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。 **【思考力・判断力・表現力等】**
- ・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる地球的課題を主体的に追究する。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州で顕在化している地域格差は、ヨーロッパ州の気候や地形や文化などの多様性や、EUとしての結び付きなどの地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、農業や工業のようすを大観し理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州で見られる地域格差の要因や影響を、空間的相互依存作用や地域に着目した課題に対し、ヨーロッパの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる地球的課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 単元の指導計画（5時間扱い）

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第一次 1時間	<p>【第一次のねらい】資料からヨーロッパ州の特色ある地理的事象を見出し、小単元を貫く学習問題を立て、学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州のイメージを挙げ、学習の意欲をもつ。 ・EUのメリットを資料から読み取りまとめる。 ・EUのメリットがありながらイギリスが離脱したことを知り、疑問をもつ。 				
	<p>【小単元を貫く学習問題】「ヨーロッパはどのような地域なのだろう～EUは必要か不要か～」</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスがEUを離脱した原因を予想し、これから検証していく事柄を考え、今後の学習の見通しをもつ。 			●	●ヨーロッパ州について、小単元を貫く学習問題をどのように解決するかの見通しを持っている。
第二次 2時間	<p>【第二次のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州で見られる地域格差の要因や影響を、空間的相互依存作用や地域に着目した「なぜヨーロッパはEUとして結びついているのか」という課題に対し、ヨーロッパの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 				
	<p>【第二次①の課題】「なぜヨーロッパはEUとして結びついているのだろうか」</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料からなぜヨーロッパはEUとして結びつく必要があるのかについて読み取る。 ・ヨーロッパ州において、空間的相互依存作用や地域に着目して、EUとして結びついている理由をまとめる。 	● 技 ○			●資料からヨーロッパがEUとして結びつく必要性を読み取る技能を身に付けている。 ○ヨーロッパ州で顕在化している地域格差は、ヨーロッパ州の気候や地形や文化などの多様性や、EUとしての結び付きなどの地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。
	<p>【第二次②の課題】「EUは必要か不要か、立場に分かれて考えよう」</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「EUは必要か不要か」について、ツールミンモデルを用いて自分の意見を考える。 	● 技		●	●EUの在り方について必要な資料を収集する技能を身に付けている。 ●EUの在り方について、自分の主張を支える根拠を、資料から読み取った情報を基に、空間的相互依存作用や地域に着目し、ヨーロッパの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。

第三次 1時間 (本時)	<p>【第三次のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E Uについて肯定的・否定的に捉えているそれぞれの立場の生徒と交流を行い、自分や他者の考えを有用な意見として価値付けし、他者の多様な意見から改めて自身の主張を多面的・多角的に考察する。 				
	<p>【第三次の課題】「E Uは必要か不要か意見交流し、考えを深めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「E Uは必要か不要か」について肯定的に捉えている生徒と、否定的に捉えている生徒で立場を明らかにし、意見交流を行い、考えを深める。 			●	<ul style="list-style-type: none"> ● どのような他者の意見と交流すれば、自身の考えをさらに深めることができるか見通しを持っている。自身の意見が他者の考えの深まりにどのように働いたか、振り返りを行っている。 ● E Uの在り方について、自分の主張を支える根拠を、資料から読み取った情報を基に、空間的相互依存作用や地域に着目し、ヨーロッパの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
第四次 1時間	<p>【第四次のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ヨーロッパはどのような地域なのだろう～E Uは必要か不要か～」に対して考察した過程や結果をまとめ、議論する活動を通して、ヨーロッパ州の地域的特色を大観し理解する。 ・ ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野に地域的格差という課題を主体的に追究する。 				
	<p>【小単元を貫く学習問題】「ヨーロッパはどのような地域なのだろう～E Uは必要か不要か～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E Uは必要か不要かをこれまでの学習や資料をもとに議論する。 ・ E Uの在り方をそれぞれの立場に分かれて考えた根拠を価値判断し、他者との対話を通して考えを深める。 ・ E Uはこれからどうなっていくのかを考え、ヨーロッパ州で顕在化している地球的課題の解決の視野をもつ。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料や、仲間との学び合いからヨーロッパの多様なすがたをとらえ、ヨーロッパの特色を考察することができる。 ● ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4 本時の学習 (4/5 時間目)

(1) ねらい

- ・ EUの在り方について、自分の主張を支える根拠を、資料から読み取った情報を基に、空間的相互依存作用や地域に着目し、ヨーロッパの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
(思考・判断・表現)
- ・ どのような他者の意見と交流すれば、自身の考えをさらに深めることができるか見通しを持ち、自身の意見が他者の考えの深まりにどのように働いたか振り返る。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

過程	学習活動・学習内容	・指導上の留意点	観点 具体の評価規準
導入 (5)	1 前回の内容を振り返り、本時の課題を確認する。	・	
課題 提示	課題 「EUのこれからについて意見交流し、考えを深めよう」		
(5)	2 活動の目的を共有し、活動に意欲を持つ。	・自分の根拠や主張を多面的・多角的なものにしたり、客観的な合理性を持たせたりするためなど、考えを深めるとはどのようなことなのかイメージさせる。	
課題 追究 (10)	3 これからのEUについて肯定的か否定的かの主張に分かれ意見交流の1回目を行う。	・肯定的意見か否定的意見か一目でわかるように、意見を円グラフに用いて表す。 ・どのような他者と意見交換を行うか観察を行い、学習のキーワードを挙げている生徒や、他者と目的意識を持ち対話している生徒に形成的評価を行う。	
(10)	4 どのような他者と意見交流を行ったか振り返る。	・どのような他者と意見交流を行うと自分の考えがより深まるか考えさせる。 ・反対の立場の意見を聞く、根拠が異なる意見を聞くなど、意見交流した結果を共有する。	
(10)	5 振り返りを踏まえて、意見交流の2回目を行う。	・次の交流は他者のどのような意見が自分の考えを深めることにつながるか、見通しを持たせる。 ・自分の意見が他者の考えを深めることに作用していることに気付かせる。	
(5)	6 これからのEUについて自分の考えを他者の意見を参考に深める。	・相手を論破させる主張を作り上げるのではなく、その場にいる人が納得いく主張を作り上げることができるよう指導する。	態 どのような他者の意見と交流すれば、自身の考えをさらに深めることができるか見通しを持ち、自身の意見が他者の考えの深まりにどのように働いたか振り返る。
整理 (5)	7 「学びの地図」に本時の学習の振り返りを書く。	・本時の学習についてわかったことを「学びの地図」に記入させる。	思 自身の意見が他者の考えの深まりにどのように働いたか振り返り、次の活動につなげている。